

# 主 張

このシリーズでは、ジャーナリスト木戸健介さんが7年前、公共事業に対するメディアの報道姿勢に問題あり、と国土政策研究所で講演した内容を紹介しながら、状況は今日でもそう変わっていないと指摘してきた。

木戸さんは講演の後半で、自らが読売新聞の記者時代に書いた一本の記事を紹介した。「変わるダム 『利水』から『治水』の流れ(2004年12月22日付)である。ダムは90年代後半から、公

共事業の無駄遣いや自然破壊の象徴と批判され、予算削減、事業中止が相次いだ。全課長は、ダムは「整備計画ができていれば今回のはんらんは、と述べた。

たという。何があったのか。記事によると、2004年は台風や豪雨災害が相次いだ。台風の直撃を受けた地域を所管する地方整備局の担当課長は、ダムは「整備計画ができていれば今回のはんらんは、と述べた。

はいつ襲つか分からない災害のために多額の税金を投入して対策を講じるのは無駄だ。考えていたが、実際に災害が起きて住民から厳しく批判されたのではないのか。災害報道に接して、歯がゆい思いをした人も多かったのではないのか。公共事業によるインフラ整備と防災の関係について、木戸さんの指摘を改めてかみしめたい。

土木学会第105代会長・大石久和氏の言葉を思い出す。「道路は今まで、こんな目標を言ったことはありません。市町村道から高速道路に至るまですべてのネットワークを使って、すべての市町村が災害時に孤立しないようにする。」(本紙8月1日号)。

木戸さんが言うように、「住民の命と財産を守る責任を持つ。市町村道のトップとしてはお粗末」だが、台風や豪雨災害と聞けば、今年の話かと思ってしまう。西日本豪雨などでも、暮ら

し、命綱ともいえる橋が渡れなくなり、孤立する地区が相次いだ。なぜ道路が一本しかないのか、災害報道に接して、歯がゆい思いをした人も多かったのではないのか。公共事業によるインフラ整備と防災の関係について、木戸さんの指摘を改めてかみしめたい。

土木学会第105代会長・大石久和氏の言葉を思い出す。「道路は今まで、こんな目標を言ったことはありません。市町村道から高速道路に至るまですべてのネットワークを使って、すべての市町村が災害時に孤立しないようにする。」(本紙8月1日号)。

土木学会第105代会長・大石久和氏の言葉を思い出す。「道路は今まで、こんな目標を言ったことはありません。市町村道から高速道路に至るまですべてのネットワークを使って、すべての市町村が災害時に孤立しないようにする。」(本紙8月1日号)。

## 約40%省力化を実現

### 「できる最大の結果を」

多伎インター橋 主桁・床版工が完了

若林課長は「保田社長 絡にも迅速に対応して」と平原次長には、急な連絡に「ただき、感謝している。」

皆さんとの信頼関係を今後も継続したい」と述べている。

現場では、IHIインフラ建設の渡辺所長が「周辺工事が複数重なるため工程管理に苦心した。出来形管理では最新技術の活用によって、一

部の作業で約30~40%の省力化が図れたと思う」と評価した。

作業員はマイクロソフト・ホロレンズ装着に協力してくれ、「将来的には効率が格段に上がるかも知れない」と感想を述べたという。

多伎インター橋は、島根県出雲市多伎町久村で事業中の橋長76m(支間長23・8m+24・0m+24・8m)、有効幅員19・5mのPC3径間連結

6主コンボ橋。連絡道路2本と後谷川を横過する。1径間6本の主桁は、現場近くの極東興和・江津PC工場でプレキャストセグメントを製作。同セグメントを陸送後、現場ヤードで3ブロックを

現在、床版工がすべて完了し、一部の壁高欄の施工と、検査路・排水装置など付属物を据え付けて、来年1月末の完工を目指している。

工期は18年1月~19年1月。落札金額は3億2840万円(契約時、税別)。



工事が佳境を迎えた多伎インター橋

「建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト」選定コンソーシアム一覧 (橋梁関連抜粋)

#### ●対象技術 I、II

浅沼組◎ 先端建設技術センター 岐阜大学 ミオシステム	大和御所道路 曲川高架橋 曾我地区下部工事
--------------------------------------	--------------------------

IHI インフラ建設◎ IHI オフィスケイワン 千代田測器	湖陵多伎道路多伎PC 上部工事
---	--------------------

#### ●対象技術 I 労働生産性の向上を図る技術

川田工業◎ 川田テクノシステム ソフトバンク 川田建設	(修)上部工補強工事1-207
--------------------------------------	-----------------

前田建設工業◎ ミツフジ	日高豊岡南道路山本高架橋 上下部工事
-----------------	-----------------------

カナツ技建工業◎ 福井コンピュータ ライカジオシステムズ 山陽測器	静間仁摩道路大国高架橋 橋外下部工事
--	-----------------------

アジア航測◎ 日本国土開発 関西大学 関西総合情報研究所 美津濃	平成29-30年度 新町川橋下部(その3)工事
--	-------------------------

#### ●対象技術 II 品質管理の高度化を図る技術

三井住友建設◎ エリジオン エイチテクノ	国道45号 有家川橋上部工事
----------------------------	----------------

◎は代表者



中村部長



渡辺所長

## 長野で市町村支援が始動

### MAE養成を協議

長野県建設部と信州大学工学部など6団体で作る「信州橋梁メンテナンス支援協議会」は、市町村の職員らを対象にした点検技術者の養成講座を来年度から設けることにし、11月15日、今後の活動に向けた覚書を締結した。自治体で橋梁の点検・メンテナンスの担い手不足が指摘されるなか、注目される取り組みだ。

正式名称は「橋梁のメンテナンスに係る技術者の養成及び技術支援の連携に関する覚書」で、他の4団体は長野県建設

技術センター、国立長野工業高等専門学校、建設コンサルタンツ協会長野地域委員会、長野県コンクリート補修・補強協会。同協議会は今年9月に発足し、県独自にMAE(メンテナンス・アシスタント・エンジニア)と呼ぶ技術者を養成するための協議を重ねてきた。

その結果、市町村が行う橋梁メンテナンスを支援するため、橋梁の点検を行う技術者の養成とそ

来年度のスタートに向け、6団体がそれぞれ養成講座を開いたり、講師を派遣したりする方向で具体的な検討が進んでいる。

## 既設構造物撤去に着手

JR芸備線 被災橋梁



既設桁撤去(JR広島支社提供)

JR西日本広島支社は11月22日、7月豪雨で被災したJR芸備線・第一三篠川橋りょうの既設構造物の撤去工事に着手している。

た。撤去工事は、JR西日本のグループ企業である広成建設(広島市東区、国広敏彦社長)が担当している。



### 株式会社 長大

本社 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目20番4号  
URL <http://www.chodai.co.jp>